



官剝

孝義錄

卷廿六

若狹

9
1596
26



1596
26



孝義錄卷之二十六

若使國

孝行者

酒井修理更領分
遠安下中郡奧田繩村

百姓赤富妻

寸三

四十二歲

正德六年
獲免

孝行者

日領
遠安上中郡楚川村

庄倉

与七

歲不知

享保六年
獲免

奇特者

日領
三方郡早津浦

義全母

二宅

六十三歲

享保十三年
獲免

奇特者

日領
日所

町人佐渡屋

二宅

三十八歲

享保十八年
獲免

忠義者

日領
小浜城下埃倉町

百姓

九節

二十八歲

享保十八年
獲免

孝行者

日領
遠安上中郡上野本村

富五節

歲不知

享保十八年
獲免

孝義錄卷之二十六

○孝行者 日領 遠安上中郡有田村

潔白者 日領 家末

○奇特者 日領 大飯郡林世村

○奇特者 日領 大飯郡日引村

忠義者 日領 小湊城下八百屋町

農業出精 日領 遠安下中郡新滝首村

孝行者 日領 小湊城下大津町

孝行者 日領 大飯郡尾内村

百姓 池田 助業

百姓 番所 不番付間

百姓 庄屋

百姓

町人 様屋 宗清下男

百姓 長林 亦清妻

百姓

寛保十八年 慶長

庄屋 寛保元年 慶長

助左衛門 寛保二年 慶長

宗清 寛保元年 慶長

太兵衛 寛保二年 慶長

惣右衛門 寛保三年 慶長

三之助 寛保元年 慶長

宗清 寛保二年 慶長

○孝行者 日領 遠安下中郡尾内村

○奇特者 日領 三方郡相田村

○奇特者 日領 日所

○奇特者 日領 日所

○孝行者 日領 遠安下中郡他田終村

○孝行者 日領 三方郡早瀬浦

○孝行者 日領 遠安下中郡海原村

○奇特者 日領 大飯郡音海村

百姓

百姓

百姓 平十郎 伴

百姓 百禮 金日市村

百姓

百姓 百禮 佐屋 兼

百姓 百禮 登喜 兼

百姓 庄屋

池田 安次 寶曆十二年 慶長

平十郎 明和元年 慶長

七兵衛 日時 慶長

信吉 日時 慶長

孫兵衛 明和六年 慶長

八之助 明和七年 慶長

三之助 明和八年 慶長

小右衛門 明和八年 慶長

○忠義者 日傾 家來

○兄弟睦者 日傾 大坂郡小湊村

○兄弟睦者 日傾

○孝行者 日傾 三方郡多漢村

○孝行者 日傾 遠安郡中野村

○孝行者 日傾 大坂郡高津合左家町

○孝行者 日傾

○孝行者 日傾 大坂郡高津合町裏町

代官 氏名 氏名 氏名 氏名

百姓 死後 昭和八年 褒賞

百姓 宋四郎 二十七歲 昭和八年 褒賞

百姓 出川 二十歲 日時 褒賞

百姓 八重子 四十一歲 安永元年 褒賞

町人 生田屋 三十三歲 安永元年 褒賞

町人 佐藤 四十五歲 安永二年 褒賞

町人 佐藤 三十三歲 日時 褒賞

町人 佐藤 三十三歲 安永二年 褒賞

孝行者 日傾 小湊城下惣村小治

奇特者 日傾 大坂郡高津合尾町

潔白者 日傾 小湊城下今町

奇特者 日傾 三方郡行波村

○孝行者 日傾 三方郡多漢村

孝行者 日傾 三方郡多漢村

孝行者 日傾 三方郡多漢村

町人 油屋 源七 甲一歲 安永二年 褒賞

町人 小湊 若量 六十三歲 安永二年 褒賞

常使 若量 六十三歲 安永二年 褒賞

庄屋 新太郎 五十一歲 安永三年 褒賞

庄屋 亦兵衛 甲八歲 安永五年 褒賞

百姓 長三郎 五十五歲 安永五年 褒賞

百姓 八尾馬 六十六歲 安永五年 褒賞

百姓 安右衛門 甲五歲 安永五年 褒賞

孝行者

日頌 三才教多漢村

百姓市平源

佐分

安永五年 獲免

孝行者

日頌 三才教多漢村

百姓

傳四郎

安永五年 獲免

孝行者

日頌 三才教多漢村

百姓

若為

安永五年 獲免

孝行者

日頌 三才教多漢村

百姓

李玄揚

安永五年 獲免

孝行者

日頌 三才教多漢村

百姓

卯右馬

安永五年 獲免

○孝行者

日頌 遠安上中郡本保村

百姓

宮島

安永五年 獲免

孝行者

日頌 日所

志げ

日時 獲免

孝行者

日頌 遠安上中郡中井木村

百姓 百禮堂屋志本源

の孫

安永七年 獲免

○兄弟睦者

日頌 遠安上中郡三井村

百姓

八右馬

安永九年 獲免

孝行者

日頌 遠安上中郡黒田村

百姓 庄屋安永妻

三人

安永九年 獲免

風俗宜者

日頌 遠安上中郡兼田村

百姓

惣百姓

安永九年 獲免

孝行者

日頌 大坂郡高濱屋敷地檢町

百姓 町人桶屋屋敷娘

知子

安永九年 獲免

孝行者

日頌 小漢城下富沢町

百姓 町人堀屋屋敷妻

志四郎

安永九年 獲免

孝行者

日頌 遠安上中郡有田村

百姓 百姓次郎助後良

すん

天明元年 獲免

孝行者

日頌 遠安下中郡井上村

百姓 百姓次郎助後良

法史

天明元年 獲免

○潔白者

日頌 遠安上中郡其川村

百姓

金助

天明元年 獲免

潔白者 日所

潔白者 日所 遠安下中郡國分村

○奇特者 日所 大飯郡三津赤尾村

孝行者 日所 三芳郡新庄村泉

孝行者 日所 三芳郡新庄村音核

兄弟睦者 日所 三芳郡新庄村松倉

奇特者 日所 大飯郡日門村

○貞節者 日所 遠安下中郡西津長町

全賜壽

木上 日時 獲安

孫之節 天賜元年 獲安

庄有馬 天賜二年 獲安

次節助 天賜四年 獲安

仁有馬 天賜四年 獲安

志有馬 天賜四年 獲安

節有馬 天賜四年 獲安

志け 天賜六年 獲安

○忠義者 日所

奇特者 日所 大飯郡藤島村

奇特者 日所 遠安上中郡中保村

孝行者 日所 大飯郡國分村

孝行者 日所 遠安下中郡中村

奇特者 日所 大飯郡鯉川村

奇特者 日所 大飯郡三津中町

奇特者 日所 大飯郡三津赤尾町

日下

たま 日時 獲安

新屋 天賜六年 獲安

奧本 天賜八年 獲安

長次節 寬政元年 獲安

長定馬 寬政元年 獲安

長定馬 寬政元年 獲安

伊卷保右馬 寬政元年 獲安

石平 寬政元年 獲安

奇特者

日頃

百奉妻

とく

日時

奇特者

日頃

日時

岩

日時

孝行者

日頃
遠黄下中郡西台村

百姓

五

寛政元年

孝行者

日頃
大坂郡高津町

百姓

五府助

寛政元年

孝行者

酒井修理定領分
小浜城下横所町

三松屋

久次郎

寶曆十一年

奇特者之郡云云

之郡云云大坂郡日引村の百姓ありて十八名九斗の
あり此高と云ふ人となり篤実小頼母也
のありてさあや一為なる内乃浦の二組と奉
らるる郷ありしふそ中奥七村よとあ
る人くく之郡云云と源く交りて云ん
しとも云りたはるる事このの産業の
事を頼とつるにあらはれんらるに
里又寛保の以猪麻絲の布にあらはれし
ひとそは乃孝行の業ありて村の

困苦にありてはもろくもいひてはかゝる事なれども
 あり金と有りては者僕とぬの事なれども
 その利はとたよもくはらふ事なれども
 之部は婦人の御座りてはもろくもいひてはかゝる事なれども
 したる村人の家産を御座りてはもろくもいひてはかゝる事なれども
 それハ親族にありてはもろくもいひてはかゝる事なれども
 人々ハ借銀債の事なれども
 もろくもいひてはかゝる事なれども
 むろくもいひてはかゝる事なれども
 事なれども

我兄をたよりありてはもろくもいひてはかゝる事なれども
 村人の利はとたよもくはらふ事なれども
 利はとたよもくはらふ事なれども
 親族の御座りてはもろくもいひてはかゝる事なれども
 月とありてはもろくもいひてはかゝる事なれども
 後とも子孫に承く村人を承く事なれども
 よ意をありてはもろくもいひてはかゝる事なれども
 へくもいひてはかゝる事なれども
 願ふ事なれども
 の事なれども

この志誠つこつ子に奥七の村乃多きものど助け
 天明四年より凶作しく村人の艱難多うりし
 のうりて穢饑乃くあよそく強へをける粟糠な
 と穀中儀とそりく村のうりいさうらあもいと後組
 のうりあそく強あそくあこしくを飢を凌せけ
 り父よりこのこりあゆめあひ多しそり又
 びと家云満を名稱あしてその年十二月廿
 第する事とありせしことありん

孝行者池田安を史

池田安を史はを安中郡尾崎村の百姓あか友あ

りて先祖より留氏を名のり父乃養右衛門と記
 中あそく田畑の高き十二石よりありしと御まの
 しくあがりて今いそく一石あありあそりあ
 されは名子尾崎川といへる川よ新て船とあり市
 にいりあそく世とていふとに父がとけりせしこと
 九十一ふあそりあ母のそありしあ生れ付あそり
 かのあそくいそくとあゆめあそりあそりあそり
 孝義せし事既より二十一年にあああそりあそり
 ああそりあそりああそりああそりああそりあ
 ああそりあそりああそりああそりああそりあ

奇特者年十郎

奇特者七玄清

奇特者傳者

年十郎七玄清傳者ハ三方郡相田村のちのなりけ
 る時村乃うられとて十歳ありありあり四人赤
 うき葉やうとてあつりれふよ初きうよとて
 らはも復來りて四人の肉ある十二よなる松
 とてうらよのよひつとぬきけらうとてのとも
 むれハ助くてかもあるとて年十郎ハ世あり
 よ想ひてあつりてあはれとてうらうらとて

とせつけく獲とてひ捕まへハ獲松とあとしてや
 て年十郎ハ腕よとてひつとさける年十郎持て獲
 よく獲捕ひくれハ獲岩男れとて選とけらに平
 十郎ハふれ七玄清といふもの言て又龍也りてた
 の腕に嚙付きりり折ぬ持てらるるものうらあ
 けりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつり
 たけりてあつりてあつりてあつりてあつりてあつり
 らるものよとてかも人よあつりたあつりあつり
 ちとたつらよその調よ突とて言と極つてつるにく
 とあせとてうらうらに父の年十郎ハけきり謙

とましく恨どさらり救へつけ時金四席り子乃
傳吉いあこ幕も十四とらりになるううとくか業
来り端とて恨の是とさらりかを合せく働こ
るり誠やわれらうかをもて松り必死をまぬる
のこらうはそのあこりに疵つけられしもの
あうりしとそ平十席八奉も六十におうらり
あゆり神よ疵をおいさうらま月的事とく
里とに知ここの死を救ひ七去湯ハと不あこ
疵蒙りまれとつるよ恨とここの傳吉いあこ
おこるこ男ももくけえけるる働ここつ

事とらりくに志の特なりとく咽和元年二月願王
より平十席七去湯に業とあこへ傳吉よ八後と
らせく養父せり

孝弟者いと

之者那早瀬浦の氏佐左馬の妻れいと八男姑あ
くてもあめやうたうり佐左馬極めく多くたよ
伝吉に初て業と高ひ殺日家にとらさうりこ
いとも又逆とこまうりに業とらあまう男姑と表
りまうらよ姑ハ先ようせ今八男の齡八中にあ
あうりて神よ奉こるやとわれられいとにむら

与のこまりのちうりといひてこころよく覺に見
 せ置めらゆくに細く進む時隣りある家乃
 屋根と志つらふとくといふ人となり也里居し
 小浜左衛門の家の子年こつ孔書美をつらとて毎
 里をけかいといふ家と出ると年々くお給ふこ
 美と落して飛さうりぬ是全く孝威のいひは
 不きらんといふ人といひあへてけし六願まのり
 明和七年の五月復美して来とあこへを身と
 経らゆくの家の首ともゆつせくとあん

忠義者伝

つまはき友下中野西津の小松系に正めら後人爾奈の
 う娘あり家格めくまひしけし六願まは是軽松え
 茂をまうもといふまにといひされるかあといふも十
 五とらりおれはつ子にまれおさかみ成りてこと
 あつてここに好ひありとぬ或時いつものこくに
 初子とせおひをこほらり此小道にいと好ひ
 おきつら子候くよりう痛大池来りて飛つてこ
 とつらとくも道進めてこつひ知子と地よぬこ
 せ已はそれの上よりつらにあり身とをこくお
 らひ防さるりの痛大やうく嘯付て飛をあぬ

一病に及び日夜破血流血連日初子ともあけ
 にありぬされとも程勃り泣ありきる程よを死
 あらりれんくこのさぬをうくもせ集り息
 子を大を救へつまを助けくま此處に久ら
 しむさうつるまの月の死せん事いさうよ相も
 ともとけ初子の命つううたさうりておをほこ
 そうれく多れといひるの目と種さうして毒
 氣殺ししくくうくとまらと養をまを源く
 憐この隅り醫療をうくしきれとそのひ
 うくつるまのうせぬうくめつる病おひるる時

父の懐くして家にあらぬ母母のうとすて養大ま
 の家にいそいゆけ集りつるの事といふとさう
 して初子のあやまちやまのうらと尋ねられん
 くさうしてつる母といひてもげよねくわらぬん
 といふりとも感しと願まを母事といふと
 あらぬる事しに思ひ父の角九島つよ蹟をあこ
 へ又願まれ家のくお博りて西津村なる西徳寺
 といふ所にうるの石碑をたてぬくして明和八年の
 五月よむりて願ま又ま忠誠を賞へ代へく
 角九島つよ家此實をゆらうつるの墓を西徳寺の

の形も改めさせその地をとりて寺に傳へしを
らうせしむるに永く墓地のしるしをうらふ事と命せ
しとそ

兄中 曠者 宗四郎

兄中 曠者 孫八

大坂船小浜村の百姓幸左衛門といふ方々の奉若し
らある夕ぐれよ女めくう一人のよのこふと抱い
て来り我等の西國とすとの親世書入のうら
らふのあらむ日もくれしむるいふよふに
と来り若ししむるといふにこれよ左衛門といふ

我家にとつめしむるをよめさせまらに一人の女いふや
らにらめく諸國と巡礼する頼ひるれともえまふ
とくはよめとて女の力乃持よおとるよとてい
しとておまの娘路のうらもやとていさうはうと
いふ程もおわつらうと程くいけよと書ひありけり
しともあらんよの高大の世道とる人しとてお款
つゆゆきうらよの友左衛門もよとていふやとてい
よむの積累いふといふよとていふに今無
と書しん事又なる事にあらとていふに
也い書しん事又なる事にあらとていふに

あぢの目めしりれ女いらあやしりしりしり
 ぬその後妻婦をりともいらしりしりしり
 事りうあかふにいらあはは名をい宗四郎といひ
 て成長に及縁穡をりしりしりしりしりしり
 つしりしりあはあは宗四郎を喜ひしりしり後七
 年を過して実子の破八をまうけぬ破八も生れつこ
 孝悌のまのありしりしりしりしりしりしりしり
 ろしり宗四郎身たる事とあつてしりしりしりしり
 へりしりしり破八を二十歳の迄よりあを難まて
 願まれあ士縁遠を思つといへりしりしりしりしり

あぢの父をえりしりしりしりしりしりしり
 宗四郎にあつてしりしりしりしりしりしりしり
 我身いともいしりしりしりしりしりしりしり
 年いらしりしりしりしりしりしりしりしりしり
 斤しりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
 あれよあをつせあらんしりしりしりしりしり
 あまのしりしりしりしりしりしりしりしりしり
 しりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
 兄しりしりしりしりしりしりしりしりしりしり
 中の子定りぬるしりしりしりしりしりしりしり

子へていりしれなり〜さ〜け〜のほ〜れ〜い〜れ
 こ〜ろ〜り〜奉〜と〜さ〜せ〜し〜も〜こ〜れ〜志〜由〜と〜そ〜き〜れ
 甚〜る〜宗〜四〜前〜い〜ら〜い〜も〜し〜と〜道〜を〜ぬ〜く〜さ〜ひ〜家
 事〜と〜奉〜法〜の〜恩〜且〜よ〜と〜そ〜ら〜ら〜い〜も〜忠〜ひ〜に〜さ〜い
 し〜あ〜ま〜と〜ら〜れ〜く〜親〜の〜膝〜下〜に〜あ〜ら〜ん〜程〜ハ〜後〜ハ〜と〜く
 も〜家〜に〜入〜ら〜ぬ〜し〜と〜さ〜い〜し〜れ〜り〜隣〜村〜の〜と〜め〜ら
 家〜子〜奉〜公〜し〜お〜ん〜く〜の〜年〜月〜と〜種〜々〜わ〜ら〜い〜月〜を
 約〜め〜て〜給〜事〜た〜と〜さ〜ら〜父〜の〜許〜に〜参〜り〜せ〜れ〜父
 へ〜の〜信〜々〜宗〜四〜郎〜に〜家〜由〜つ〜ら〜し〜と〜さ〜い〜ひ〜る〜甚〜ら
 小〜費〜程〜も〜さ〜ら〜と〜さ〜と〜ら〜せ〜し〜の〜い〜ひ〜見〜骨〜い〜ひ〜く

相譲りといひし〜し〜と〜ら〜ら〜に〜定〜ら〜ら〜り
 甚〜る〜と〜望〜れ〜お〜さ〜そ〜の〜あ〜つ〜つ〜さ〜に〜ら〜し〜く〜け
 甚〜ハ〜願〜望〜も〜好〜く〜感〜々〜と〜明〜和〜八〜年〜の〜五〜月〜宗〜四〜郎
 に〜家〜つ〜つ〜と〜い〜ら〜し〜と〜命〜し〜と〜れ〜ら〜ら〜の〜事〜と〜ら
 せ〜宅〜地〜の〜買〜と〜も〜由〜く〜後〜ハ〜を〜い〜あ〜ら〜し〜に〜足〜程〜よ
 かり〜と〜杖〜持〜給〜事〜と〜あ〜さ〜ら〜と〜賞〜せ〜し〜と〜あ〜ん
 孝行者まのり
 之方那多漢村の百姓九右衛門の妻の中ありとららるる
 へ〜く〜舅〜姑〜に〜つ〜つ〜と〜あ〜あ〜あ〜あり〜ふ〜と〜も〜六〜人〜持〜り
 一〜也〜十〜に〜七〜つ〜あ〜あ〜れる〜と〜長〜ら〜し〜と〜二〜つ〜あ〜あ〜く〜の〜あ

さまふるれハ家のうちらに赤変りて終日ゆゑ
 しそれとあつたあよせり戒る事あらうれハ
 ある人その子細とさひまうよ孫いよしく祖父
 母れをいふまのるれハそれと怒り罵りて舅
 姑の心にくららん事我なきにあらはらうを
 ひ事をとゆるらん時ハぬへるくゆと戒めぬとそ
 りんくら中のこつ子に家のまつていふまと舅姑
 よとせはしてそれ志と奮い孫の姑の十年より
 さうふ浮腫とやとせしうせしに言者痛残るか
 ぬらう二便とよめらぬらう助けく人の手

小婦身は夜を食も汚らひくるとハ余お目と志の
 ひておそうよとらう御もいとふ色あうとらうと
 胃のこく齡八十にありし事恙とらうに
 戸のゆとこ人の下船とありてありらうお目と志
 してらうとらうもしたる事とさひお目と志
 たらぬの首後りらうりそれハおれ月のものたらん
 さいおたきとあつたとらういふらう氣もさうめら
 いららう事とらうりたかとあしとらういしてらう
 おいらとらう家もたらうあしとらういしてらう
 んのゆとこらうの孫ハおれこれらういふものも胃に

母ハ淋とくくゆへ〜とひひ父ハ瘧疾よせり〜
 といひそれハ親乃んやうん事とされ二つうら
 携へゆけり〜と痔疾をるやとけりを父母深く
 歎けハと母を以て療治を妙〜と〜に快然
 するゆもと〜も〜父の小漢よゆけり〜と
 といひぬ〜ハ痛めり母も〜と使〜と〜
 たり〜もそのふよと〜と〜事も〜のこ
 ら〜まふ従ひ舅姑よあめや〜れハ姑人とおろ〜
 とい〜と〜よ先妣の念深きと縁せ〜り或日
 あ〜と〜あり福半と〜と〜人け〜と〜

されハ〜この人種と〜是を〜ゆ小妣王の福半乃
 垢つけら〜と〜いこれと〜と〜の福半を
 とい〜と〜若せぬ〜れけ新〜と〜と〜あり
 とい小妣の志を〜と〜ありと〜と〜父の勝右
 兼つも律多〜として〜と〜け村の祖法を勤先
 ぬ〜と〜よ一村〜と〜活〜と〜その玄業に服せ〜と〜者
 あり〜と〜と〜これハ教十年外今に〜と〜近家の内懐〜
 あり〜と〜安〜と〜永年十二月領主〜と〜と〜と〜と〜
 あり〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜

兄中睦者八右衛門

八右衛門の事をあつし申那と生姓村乃百姓あつしを村乃
 名を中をまゐといへらるもの事あり人とたうり温厚
 して若し小兒の多きをを歎きかゝるもさうして農事
 を勵と節儉をもち我身にあつしを名をさうめよ
 らずよつとてさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 とうりたよめさうさうさうのれさうさうさうさうさう
 せたまも海に憐さうさうさうさうさうさうさうさう
 為年もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 うらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あつしさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 田地家財をさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 我本さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 程農業をさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 道乃さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 らの親さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 乃あつしさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 せしと我本さうさうさうさうさうさうさうさうさう

兄の志をいひてあさしくぬるをまゝつるよし
 を言ふを従ひてあさしくぬる後も耕作の暇もい
 脚産をせりといふ價をも我身におさくといひて
 して皆兄の許りの徳りこれいふ事又も言助けを均
 く多くこれ家産を肩に担ぎてもあさしくぬる
 さりといひてあさしくぬる初ひ一口の外あさしく
 祿もこれいひてあさしくぬる徳りこれ言ふ事
 安永九年四月乃事ありといふ

潔白者金助

金助ハ孝義之中最慈川村乃百姓なり天明元年の

春のころ天和のまのとき六人つらつら巡礼に金助
 の家もあつて平らふの言をいひてあさしくぬる
 けさといひてあさしくぬる徳りこれ言ふ事
 金助の妻も人の流しよまのときあさしくぬる
 りそのわらりあさしくぬる徳りこれ言ふ事
 ことしつらふよ金一あさしくぬる徳りこれ言ふ事
 お金いろもあさしくぬる徳りこれ言ふ事
 ひらりてまにえせけりよまのときあさしくぬる
 出立し穢人の為せるも人語のわらりや満
 里ぬへられといふも追つてあさしくぬる徳り

多岐の妻もさへ世あらしあらし多岐をささねたり
 の人雇ふものなりしとてさうとせおねたしとてさう人
 痛にうらみおこれの又強き人せやらんにせり
 したとてさうよてもさうあやあらしとてさうあしよこ
 らせんがま甲斐たのしきもの多岐年ハたいぬれ
 とてさういもさうさうさうあしよんとさうさうさう
 ひいとけりか道にぬたのち山申孔雲のあしよとて
 玉つとてさうの金助さうし今初まの為さうれつる人
 あらしよとてさういさうにその月廿一人我様路の用
 途も替へしとてさうさうさうさうさうさうさうさう
 途も替へしとてさうさうさうさうさうさうさうさう

さく合さうさうさう驚さうしとてさう金の殺さう人の摸摸
 ちとさうさうさうたつたつたつたにいとさうもそのま葉よしと
 と福ハさうさうさうさうさうさうのお付しとてさうのあしよ
 も解の糸に脱ひ酒の料さうさうさうさうさうさうのあしよ
 しとてさうこれ謝礼さうけりあしよさうさうさうさうさう
 へたとてさう一錢さうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ぬ又ま物さうもよの憐と涼く萬葉さうさうものさう
 しとてさう子竹右衛門も父母にさうさうさうさうの肉歩和さう
 くらうさうさうさう 顔さうにさうさうさうさう 手札十二月よ
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

奇特者店在也

店在也、大飯郡高濱の赤尾町よとめるおるお屋を
 うみよくとくめれ名と若ま徳といひりさうか
 お若屋家ゆつんとせしこいあこいけおり
 しりあお店在也といひるをきくお継せし
 よしれも隠居し名と保助こあらため今お若ま
 こり実子さうかお店在也と家とつこけおつても人
 こたりし徳と徳とさうかお徳と徳と家と好しり
 そのこいひこいお父子たひよあひさうりしとおん
 店在也ゆつこ若ま徳といひておお徳と一ひの父乃

若屋もゆれつ許よありて者にりりる賤さものと
 もと徳と安永二年此ころ高濱の浦町なる漢家多
 く夜徳とやうくその業ありしとく飢に及んこい
 るもの多りしこい高濱よとめり人く業と出
 て救ひし時若屋も業とあこへし事既よとまひ
 又漢家と徳りし事ハ志しこいとまわよ
 徳りしころをさうかへ或救浦町よとめり力徳志
 といひるもの許よ名とくして業二徳を徳りし
 くの困窮ある漢家よから多し徳といひやり
 九右忠おとりのて十六人よからあこへたさうり

け町と治じろを初の新よりうらうらとぬりて
 まよりの九右衛門の乳しありしにけ業と持事れ
 るものも小男物を着る許よ入まぬ久七とい
 うものも夢よ似くうらうらとぬりて父よと
 めして福祿をふさうよまらぬゆりて父よと
 ひまれを若きこれいよこれ無改志うくの事せし
 うとも徳乃輝りとおれぬの百乃のよとまらうと
 ぬりてよとぬりぬされと新事うり福させま
 事あれいやじ事とゆとありぬらうらうら
 いら願まを是と守てま奉れ十月慶長とて

若きに金をあてぬま後も又金をかくしを
 小銀錢をとるるに後入或はあらうら小救い
 事らる願まにまらるるもあらうらに事精
 る事らうら天明二年九月とゆらる獲事し
 金ありて一六右衛門の金と下とせその次の
 奉にぬりぬ穀のこのりありて高浪の乳とら
 多うりて一六右衛門の許よすあ金の金と持
 難難の人とにせまらぬらぬらぬらぬらぬ
 らぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ
 らぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

ものもを志と感してとらふ百九軒ふちありて
 中へこそ奉の三月ふ粥を煮て多くれ飢人よあ
 たへ又冬にも願ふより金りりて米を十俵をこひ
 米め價を辨く延賣とりむにせしめらや十二月の
 價次第にきくして米高ふものもさうにうりあ
 へしとてはふりてその銀難得しと云たりと云
 是れこそ我輩の二百俵あり此米と百俵あり
 の差又更けつるあはれ今中くのいやくと價よりぬ
 へしとれとあふ人の多く買來ん時つてさうと
 してとくすふり心下の銀もくゆふ人りのこ

賣あへしとさうりて又あるとこ十二月慶長と
 して左右のり生涯宅地の課税をゆるし且是より
 して奉答に出つてさうとも命しその目と三年
 のころ又その必儀謹して米の價をく困窮の人
 ああさうりしと左右金すあを奉答の許し
 持初く給金施したくさひさうらあうにさく
 なる際る事もそあらましてこれに我母の首より
 持信へしと非常れ用途にさせしと業にあへし
 せしとせぬされは給時と幸に人くを救はま
 りしとあへしとあへしとあへしとあへしとあへしと

たりし人といひし一のいふに任せくすともやよ
 かりありしぬを外よも名をゆりし跡にれたるこ
 つひく町の役勤むるものゝ家に投入し軍かこま
 りしもまねりれりしりし軍とそまねりれりし
 ありし人若きよりこのこの若事と保助に尋ね
 けし若きも名をいふなりしとつひに名をいふに尋
 ねし是も又保助にゆりしつるも我若事とそつ
 りし跡より若事ありしその中らひく暗くゆり若れ
 の保助に隠居せし後も程亦変更してせびいりたる
 多り或時町乃奉祈なる人名をいふにいへりしはゆり

一のいふに若事ありしものもあはれし且銀難りありし家財
 とも賣代をせしむるなりしよ志ししくの施しあり
 特なる事なりしとありされば我家賣くしして
 是のいふに若事とも若事ありし月の金銭と書しして
 つる事ありしりもありありんされと我家酒造
 と業とありしりもあり酒粕の價を控へて記し
 機種の財を施し又ハ伊勢のありし神ももまねり
 或時ハ寺詣たるこの料と記しありしと父老く程人よ
 施しと事と好むり世の極めて賣らるる月の主事の
 人もありつるよ我家と下にいひしりもあはれ

